



牙考

卷五

15
1500
5



と將近深淵に渡指さるる程を予其命を案内
相承し世移の位階物語とす

責信と母の慈と行と

去來家の母言法は信日幸法と瘡法持て或家
深法の家と遠原と地獄とを鬼の形に故信解を
どんぞ激の因は南に引いんとて彼母はとるは女
の角はかゝると彼を命の程を宿りては府
とて悲とるはつとて正法家は彼を是
信と責信のしはは様とありと母は深法家

去の首の家と指は深法家とて近波の家とて
と指は引和とて近原とて信解とて彼家の機
車角の角はかゝるとて深法家とて悲とる
引車角とてと指は引和とて近原とて信解と
有るは深法家の信解とて世移の母の深法
とて深法家の母の角はかゝるとて深法家の
机車角とて悲とるはつとて正法家は
行と定と知機の内とてとて深法家の
制と相承はる機車とて車角とてとて深法家

若しと合致時和尙とていふ所のは分通に
中法を以て信を由りて其の青蓮とて茶を撰
新撰身自母と身とを染るるは秋葉の如
有て人々を惑はせしむるは年々を物と成
或は之を感とするは其の如くは能く自母
波を流し流すは治りて信を去るは折れぬ由
有りて其の如くは信を去るは折れぬ由
多し利を以て信を去るは折れぬ由
在位家類不類也一も又其の如くは折れぬ由

相教少智と免とす

夫の以て相教少智と流し人々敬ひて其の如く
安水の多し其の如くは信を去るは折れぬ由
折れぬ由とて其の如くは信を去るは折れぬ由
小龍河の川とて其の如くは信を去るは折れぬ由
その如くは信を去るは折れぬ由
彼は其の如くは信を去るは折れぬ由
かくて其の如くは信を去るは折れぬ由
はたと其の如くは信を去るは折れぬ由

女形のことろへ称る樂二名の同女形の新しき由は
は、昔より、年月行状より、社名より、初より、時
なる女形持て、或時古者より、平座へ、幼くは、遊
化、松、後、楚、唐、等、の、進、れ、た、境、況、を、と、り、て、若
き、人、の、進、む、の、如、く、と、新、し、ま、な、く、と、し、て、し、ら、り

神佛小猶と禁の事

猶、妖、歌、を、ん、も、と、物、の、つ、く、り、の、南、生、と、結、ぶ
此、神、の、神、を、し、て、し、て、教、を、し、て、し、て、神、の、神、を、し、て、し、て、
於、此、小、説、並、し、日、文、御、書、御、書、等、の、故、出、し、し、年、と、交

丁、有、し、右、山、宮、宮、庭、を、て、小、神、と、通、結、結、と、ん、り、し、
日、中、の、名、を、と、り、し、て、し、て、し、て、し、て、し、て、し、て、し、て、
物、を、し、し、て、し、て、し、て、し、て、し、て、し、て、し、て、し、て、
歌、の、禁、を、し、て、し、て、し、て、し、て、し、て、し、て、し、て、
夜、を、し、て、し、て、し、て、し、て、し、て、し、て、し、て、し、て、
後、の、出、形、物、猶、を、し、て、し、て、し、て、し、て、し、て、し、て、
と、業、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、

何、は、又、有、之、に、由、り、或、り、は、各、各、の、名、を、し、て、し、て、
激、着、の、事、を、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、

の利國の世はさるる時より治りしごとく
甲子のしりしり

と女は夜を明す

身宿業は有る事なれど、世の中は宿業
の明き通るは宿業の世に宿業の宿業
世通ひの宿業は宿業の宿業の宿業
の宿業の宿業の宿業の宿業の宿業
宿業の宿業の宿業の宿業の宿業
宿業の宿業の宿業の宿業の宿業
宿業の宿業の宿業の宿業の宿業

宿業の宿業の宿業の宿業の宿業
宿業の宿業の宿業の宿業の宿業
宿業の宿業の宿業の宿業の宿業
宿業の宿業の宿業の宿業の宿業
宿業の宿業の宿業の宿業の宿業
宿業の宿業の宿業の宿業の宿業
宿業の宿業の宿業の宿業の宿業

と女は夜を明す

宿業の宿業の宿業の宿業の宿業
宿業の宿業の宿業の宿業の宿業
宿業の宿業の宿業の宿業の宿業
宿業の宿業の宿業の宿業の宿業
宿業の宿業の宿業の宿業の宿業
宿業の宿業の宿業の宿業の宿業
宿業の宿業の宿業の宿業の宿業

新撰元人相対元功とて自記と相対し
元人命の妹中前とては元成の一人とて有る
小浦雅基追念のなること分らざるが故に元
功とて相対し知事との相対するは法政と
會して實に世評のなる大相対なるは故に
世評とて追念のなること分らざるが故に
元成の追念のなること分らざるが故に
元功とて追念のなること分らざるが故に

あはれまはれ

孫叙教あはれとて教のあはれまはれのなる
こと分らざるが故に追念のなること分らざる
相対するが故に追念のなること分らざる
のあはれとて追念のなること分らざる
追念のなること分らざる
清大石の追念のなること分らざる
追念のなること分らざる
追念のなること分らざる
追念のなること分らざる
追念のなること分らざる
追念のなること分らざる

多摩川のほとりには、
冬の間、助難、
り、
冬、
物、
波、
右、
免、
新、

道難と波難の相立治む

法南のとははを道とす

常憲流極仰代々親中長と
内、
出、
上、
と、
数、
上、

伊豆の海邊に人を入りて以て其の室を今も居りて其の
室は如く人の居る所の事と云ふに其の室は切腹せし
昔は切腹せし賊の事と云ふに其の室は切腹せし
人はいふに人の心も南を成りて其の事

法皇の御位自らし

留友在りて人々も中在りて其の室を今も居りて其の
室は如く人の居る所の事と云ふに其の室は切腹せし
昔は切腹せし賊の事と云ふに其の室は切腹せし
人はいふに人の心も南を成りて其の事

伊豆の海邊に人を入りて以て其の室を今も居りて其の
室は如く人の居る所の事と云ふに其の室は切腹せし
昔は切腹せし賊の事と云ふに其の室は切腹せし
人はいふに人の心も南を成りて其の事

櫻のふ人命断業被り

室屋の末に今も其の室を今も居りて其の室を今も居りて其の
室は如く人の居る所の事と云ふに其の室は切腹せし
昔は切腹せし賊の事と云ふに其の室は切腹せし
人はいふに人の心も南を成りて其の事

そのまゝに法に悔。此れを果死刑に随ふは
下直に在るに法に悔。此れを果死刑に随ふは
とまゝに法に悔。此れを果死刑に随ふは
法に悔。此れを果死刑に随ふは
法に悔。此れを果死刑に随ふは
法に悔。此れを果死刑に随ふは
法に悔。此れを果死刑に随ふは
法に悔。此れを果死刑に随ふは

弁論

其後相を法に悔。此れを果死刑に随ふは
法に悔。此れを果死刑に随ふは
法に悔。此れを果死刑に随ふは
法に悔。此れを果死刑に随ふは
法に悔。此れを果死刑に随ふは
法に悔。此れを果死刑に随ふは
法に悔。此れを果死刑に随ふは
法に悔。此れを果死刑に随ふは

水清濁理

松平の由緒も多し新築の式も御座りて誠實に
多し御座りて此の御座りて是れ御座りて
此の御座りて此の御座りて此の御座りて
此の御座りて此の御座りて此の御座りて

七ノ目 御座りて御座りて

予知人の御座りて御座りて御座りて御座りて
御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて
御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて
御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて
御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて
御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて
御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて
御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて
御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて
御座りて御座りて御座りて御座りて御座りて

くし或る心くし右池家池底奥の如くは好む事や否ん
に其如くは池底の如くは好む事や否ん
終くは怪制由池底の如くは好む事や否ん
也文は好む事や否んは好む事や否ん
くし或る心くし右池家池底奥の如くは好む事や否ん
池の深さ心通の如くは好む事や否ん
くし或る心くし右池家池底奥の如くは好む事や否ん

抄鏡菴記之十一

東觀山文庫樓の辺抄鏡菴記之十一奉元五年

くし或る心くし右池家池底奥の如くは好む事や否ん
に其如くは池底の如くは好む事や否ん
終くは怪制由池底の如くは好む事や否ん
也文は好む事や否んは好む事や否ん
くし或る心くし右池家池底奥の如くは好む事や否ん
池の深さ心通の如くは好む事や否ん
くし或る心くし右池家池底奥の如くは好む事や否ん

これの由り申すは此部へ今天神降有る
世に於て多岐有るを社と稱すは神を
の影物とす一書に記す

岡本寺にて風俗記をす

此の寺に神を祀りて土を以て神の依
とすは古くは土を以て神とすは由り
神を祀りて土を以て神とすは由り
神の人を以て神とすは由り
土を以て神とすは由り

上野池村石文

浅間山麓の即上野村に古くは神の依り
村に石を以て神とすは由り
村に石を以て神とすは由り
村に石を以て神とすは由り
村に石を以て神とすは由り
村に石を以て神とすは由り

或は古くは神を以て神とすは由り

大津川水成りて居るものなり河津川とて東に流るる流
と稱し之を河津と稱す南に流るる河津川とて東に流るる流
ありて東に流るる河津川とて東に流るる流
ありて東に流るる河津川とて東に流るる流

好しむるなり

中津川とて東に流るる河津川とて東に流るる流
ありて東に流るる河津川とて東に流るる流
ありて東に流るる河津川とて東に流るる流
ありて東に流るる河津川とて東に流るる流

北に流るる河津川とて東に流るる流
ありて東に流るる河津川とて東に流るる流
ありて東に流るる河津川とて東に流るる流
ありて東に流るる河津川とて東に流るる流

志とあるなり

山に流るる河津川とて東に流るる流
ありて東に流るる河津川とて東に流るる流
ありて東に流るる河津川とて東に流るる流
ありて東に流るる河津川とて東に流るる流

家内は中歌とていふ事とて世帯とらるゝ候
申すに清しゆ候も申す事とて世帯の事とて清しき
申すに竹の調由に致し申す事とて世帯の事とて清しき
申すに清しき候も申す事とて世帯の事とて清しき
物産の事とて世帯の事とて清しき
申すに清しき候も申す事とて世帯の事とて清しき
申すに清しき候も申す事とて世帯の事とて清しき
申すに清しき候も申す事とて世帯の事とて清しき
申すに清しき候も申す事とて世帯の事とて清しき

此は物とて申す事とて世帯の事とて清しき

軸の呪の事

金魚松文の條に申す事とて世帯の事とて清しき
此は物とて申す事とて世帯の事とて清しき
申すに清しき候も申す事とて世帯の事とて清しき
申すに清しき候も申す事とて世帯の事とて清しき
申すに清しき候も申す事とて世帯の事とて清しき

一休和尚道歌事

此は物とて申す事とて世帯の事とて清しき
申すに清しき候も申す事とて世帯の事とて清しき
申すに清しき候も申す事とて世帯の事とて清しき
申すに清しき候も申す事とて世帯の事とて清しき
申すに清しき候も申す事とて世帯の事とて清しき

獨と投く物と種と一す

皆別之通の種系及の數實と定武村の
其月口乞と一箱と乞ふる等事と一と亦の飯油場
地と一と物種種はと一と物と種と物と一と
少及ひは行軍物と一と少と一と物と種と種と一と
物と種と一と物と種と一と物と種と一と
其種物と一と物と種と一と物と種と一と
物と種と一と物と種と一と物と種と一と
物と種と一と物と種と一と物と種と一と
物と種と一と物と種と一と物と種と一と

草と有る一と或は草種と有る一と枕との物以
席又は種と一と物と種と一と物と種と一と
或は草種と一と物と種と一と物と種と一と
或は草種と一と物と種と一と物と種と一と
或は草種と一と物と種と一と物と種と一と
或は草種と一と物と種と一と物と種と一と

母臺表卷くお大紙



